

駅から徒歩3分

家族で旅行に出かけた時のことです。

高速道路を走る車の中で、小学校6年生の子どもが、

「お姉ちゃん、『速さと時間と道のりの関係』って知ってる？」と聞きました。

高校1年生の子どもが、「あたりまえやん、知ってるに決まってるわ。」と答えると、妹は、「私、この前、算数で習ったんや。」と、自慢げに話を続けました。

「〇〇まで行くのでしょ？さっき『〇〇まで250km』って表示が出ていたけど、いったい何時頃着くのかな？ちょっと計算してみようっと！今、時速80kmで走っているので…ちょっと、紙とペンない？貸して。」と言い、妹が計算を始めました。

「 $250 \div 80$ で3.125か。わ～あ、あと3時間以上もかかるんだ。お姉ちゃん合ってる？」
姉が、「へ～え、ちゃんとわかってるやん。」と言うと、妹はとてもうれしそうでした。

高速道路を降りてからも、妹は勉強してわかったことのうれしさから、案内看板や道路標識にある数字をすべて『速さと時間と道のりの関係』に当てはめるのです。

「ほら、あそこに『コンビニまで車で6分』って書いてるよ。どれくらい先にあるのかな。今、時速40kmくらいで走っているの… 40×6 で240kmか、あれっ、240mか…お姉ちゃん、どっち？」

「違うってば、40は時速で、6は分だから、6分を60で割って、単位を時間にそろえてから掛けるの。だから、4km先ってことよ。まあ、時速40kmは、60分に40km進むということだから、6分だったら4kmって、すぐにわかるけどね。」

「あっ、そうか…えへっ、ちょっと間違っただけや。」と、こんな調子で二人は、『速さと時間と道のりの関係』の計算に夢中になりました。

そのうちに妹がこんなことを言い出しました。

「あそこに『駅から徒歩3分、近い！』って、書いてあるよ。でもあれは誰が歩いて3分なのかな。お姉ちゃんと私の歩く速さは同じじゃないし。それに、おばあちゃんだったら杖をついていて速さはゆっくりだから、3分では無理じゃないかな。だって、この前、おばあちゃんと本屋さんまで歩いて行ったとき、結構時間かかったよ。私ひとりなら5分もかからないけれど、おばあちゃん、ふーふ一言って歩いていたもの。」

「車椅子で移動する人なら、『徒歩5分』と書かれていても、わからないのところがうかな。お姉ちゃん、そう思わない？」

「う～ん、確かにそうだねえ。」と、うなづく姉でした。

目的地までの案内にもいろいろな表記があることに気づき、見たこと感じたことを次から次へと話し、会話が途絶えません。

私は、子どもたちの様子を見ながら、案内表示からいろいろな人の状況を想像し、想いを巡らせていることをうれしく思いました。そして、誰にとってもわかりやすく、正しく伝えることができるように案内することは難しいけれど、とても大切な視点であると改めて感じました。